

運動の特性に触れる 体育科授業の創造

東広島市立八本松小学校

全児童生徒数	684名 (男子363名 女子321名)
全クラス数	19クラス(特別支援級8クラス)
TEL	(082) 428-3564

1 課題と目的

本校では、運動が好きな児童を増やすために、授業改善を行ってきた。しかし、依然として運動に対して苦手意識をもった児童がおり、運動の二極化の解消には至っていない。

「その運動における児童にとっての楽しさや喜び」に重点を置き、その運動の特性に触れる体育科授業の改善を図ることによって、運動が好きな児童を増やすことを目的として取り組んだ。

2 主な取組の内容

(1) 運動の特性に触れる工夫

- ・教材、教具の工夫
- ・単元構成の工夫
- ・段階的な場の工夫

(2) 課題設定の工夫

- ・運動が苦手な児童も「やってみたい」と思える魅力的な場の設定
- ・「いまもっている力」で楽しめるルール作り
- ・ストーリー性のある課題設定

(3) 関わり合いの工夫

- ・兄弟チームの効果的活用
- ・ICTの活用

3 取組で工夫したところ

(1) 運動の特性に触れる工夫

各領域・単元における「児童から見た運動の楽しさや喜びはどこにあるか」「児童が運動特性を味わえない要因は何か」を考え、指導の工夫を行った。特に、効果的だったのは、次の二点である。

一点目は、教材、教具の工夫である。2年生で実施した「おぼけサッカー」では、教員が自作した蹴り

やすいボールや当てやすい的を設置した。攻守分離型のゲームを行わせることで、全ての児童が「シュートを決める」楽しさや喜びを実感した。

二点目は、単元構成の工夫である。5年生で実施した「ハンドボール」では、単元前半に、ラインマンやアタックマンの役割を設定することで、動きの習得や有効な攻め方の理解をねらった。単元後半では、作戦の選択とチームの課題解決をねらった。さらに、単元を通して、全チームとゲームを行う総当たり戦と、同じチームと2回続けてゲームを行う対抗戦を設定することで、チームの特徴に気付かせたり、課題解決を図ったりすることをねらった。このような単元構成の工夫は、児童がハンドボールの楽しさや喜びを味わうことに効果的であった。

(2) 課題設定の工夫

運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童が「やってみたい」と思えるような工夫を行った。特に効果的だったのは、「場の設定」である。1年生で実施した「忍者修行～跳ぶの巻～」では、体育館全体に、山越えゾーン・川跳びゾーン・飛び石ゾーンなどの場を設定することで、児童の「やってみたい」という運動意欲の向上に繋がった。

4 成果と今後の課題

(児童アンケート)

(1) 「運動が好きですか」

肯定的評価 90.7%→94.8%

(2) 「体育の授業が好きですか」

肯定的評価 91.0%→92.7%

(波及的効果)

外遊びが好きな児童が増え、平均 70～80%の児童が外遊びをするようになった。



2年生「おぼけサッカー」

的(おぼけ)に当てる楽しさや喜びを味わいながら、ゲームを行った。



5年生「ハンドボール」

ラインマンやアタックマンを活用し、集団対集団による攻防の楽しさを味わった。



1年生「忍者修行～跳ぶの巻～」

忍者というストーリー性のある課題設定と魅力的な場の設定で運動意欲が向上した。